

履歴書

2012 年 9 月 3 日現在



ふりがな		から	さわ	ゆう	こ
氏 名					
唐澤 佑子					
出身地		年齢		※	
東京		(満 31 歳)		男 ・ 女	
参加した NICE ボランティア		分野			
		文化、福祉			
場所		ブルガリア・プロヴディフ市			
(国・市町村まで記入)		ポーランド・ボヤノフ村			
受け入れ団体		活動のやりがい度			
		100%			

こんなボランティアでした
ブルガリア：孤児院で子どもたちと一緒に夏休みを過ごす。レクリエーション、遠足、清掃活動など。
ポーランド：地元のキリスト教団体主催のサマーキャンプのお手伝い。子どもたちと一緒にレクリエーション、遠足など。

年齢	経歴
18 歳	国際基督教大学教養学部国際関係学科 入学
	ブルガリアでの国際ワークキャンプに参加
19 歳	ポーランドでの国際ワークキャンプに参加
21 歳	リトアニア、カウナスへ 1 年間留学
23 歳	大阪大学大学院人間科学研究科修士課程 入学
25 歳	大阪大学大学院人間科学研究科博士課程 入学
28 歳	調査のためチェコへ
31 歳	チェコ、マサリク大学大学院哲学研究科 入学
趣味・特技	映画鑑賞
座右の銘	特になし
参加までの旅行経験・ボランティア経験	
特になし	

記入上の注意 1：鉛筆以外の黒または青の筆記具で記入。2：数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。  
3：※印のところは、該当するものを○で囲む。

志望動機
大学が3学期制で夏休みがたっぷりあったため、どこかへ行きたい+英語力をアップさせたいと考えていたところ、たまたま大学の掲示板でNICEのポスターを見て、「これだ!」と思い参加しました。

行くまでに心配だったこと（どう乗り越えたか）
初めての海外一人旅、しかも情報のあまりないブルガリアという国だったので、キャンプ地につけるかどうかはまず心配でした。

家族・友人・学校・職場の反応（私はこうやって説得した!）
家族の反対は特になかったと思います。大学もあちこち好き勝手に行くような人がたくさんいた大学なので「珍しいところ行くね」といった程度の反応でした。

ワークキャンプとその後の人生（進路決定、参加経験が役立っていること等）
ブルガリアの孤児院で子どもたち同士が「あいつはジプシーだ」とふざけて言いあっているのを聞いたり、孤児院の隣の産院前でジプシーの楽団（子どもが生まれたお祝いにつけつけた）が演奏しているのを見たりしたのをきっかけに、ジプシー（ロマ）に興味を持ち、彼らについて研究するために大学での専攻を文化人類学にしました。またワークキャンプをきっかけにいわゆる東欧に興味を持ち、交換留学制度のあったリトアニアへ留学。リトアニアでジプシーに関する調査を継続したかったが、諸事情のためフィールドワーク地をチェコに決定。今秋からチェコの大学院でジプシー音楽の調査・研究に取りかかります。

成長ダイアグラム ※	これから参加を考えている人へ、熱いメッセージを♪
	<p>自分が生まれ育った環境とは全く違ったところに身を置き、ワークキャンプの仲間（一緒に活動する人々）や地元の人たちと交流し、異なる言語で話し、さまざまな価値観に触れることは絶対若いうちに経験しておくといいと思います。</p>

※成長ダイアグラム（5＝とても得るものがあつた・良くなつた。4＝まあまあ得るものがあつた・良くなつた。3＝前と変わらなかつた。影響なし。2＝前よりもやや劣るようになった・悪くなつた。1＝前よりもずっと劣るようになった・悪くなつた。）